

お笑い第8世代は、 どこへ向かう？

お笑いの研究から、
笑いの未来は
見えますか？
角尾先生、教えてください。

「漫才」のルーツは平安時代とされています。
「萬歳^{まんざい}」という字をあてた二人一組の芸で、
お正月などに各家を訪問し、太鼓や三味線にのせて
祝言を述べる「門付芸」が主でした。

面白くて笑うというよりは、お祝いの場をみんなで
共有して、朗らかにほほ笑み合うものです。

それがボケとツツコミによるおしゃべり中心の「漫才」に
変化したのは大正から昭和にかけて。おかしい対象を決めて、
嘲笑して楽しむ芸として生まれ変わります。

バナナの皮で滑るなど、柔軟に対応できない人を笑い者にし、
笑う側が優位に立ってそこからボケを叩いたり、
侮辱するような笑いも生まれました。時代が変わり最近では、
こうした痛みを伴う笑いは疑問視されるようになり、
人を傷つけないお笑いや、ツツコミが自滅するコントなど、
さまざまな工夫がされています。

TVなどでも暴力表現やいじめにつながる内容は
カットされますが、ただ排除しても人の心の中の暴力性が
消えるわけではありません。

今後は、笑いを通してしか触れられない心の奥の
ダークな部分を暴くことで、自分を見つめ直せる
ようなお笑いが出てくるかと思っています。



総合文化学科
講師 角尾 宣信



〈対面型・予約制〉オープンキャンパス

10:00~16:30

9/11(日)・10/2(日)

総合型選抜前期

9/14(水)~ 出願受付

学校推薦型選抜

11/1(火)~ 出願受付

現代人間学部

表現学部

経済経営学部

小田急線鶴川駅から

徒歩約15分

<https://www.wako.ac.jp/>

ひとりを光らせる

和光大学